

令和8年度第1回加古川市子ども・子育て会議 議事要旨

【日時】 令和8年7月31日(金) 14時00分～15時45分

【場所】 加古川市役所北館 531会議室

【出席委員】 松田会長、阿部副会長、深川委員、山本佳委員、大野委員、北野委員、高瀬委員、山本浩委員、山本美委員、乾委員、石田委員、大形委員(12名)

- 【会議次第】
- 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 利用定員の設定について
 - 3 報告事項
 - (1) 利用定員の変更について
 - (2) 加古川市こども・若者計画の参考指標について
 - (3) 教育・保育の利用状況及び取組状況等について
 - (4) 第三期加古川市子ども・子育て支援事業計画の取組状況について
 - (5) こども誰でも通園制度の進捗状況について
 - (6) こども・若者の意見聴取に係る取組状況(令和7年度実績)について
 - 4 テーマ討議
 - (1) こどもの居場所づくり
 - 5 閉会

- 【配付資料】
- 資料1: 利用定員の設定について
- 資料2: 利用定員の変更について
- 資料3: 加古川市こども・若者計画の参考指標
- 資料4: 加古川市の現状(最新データ)
- 資料5: 加古川市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業 利用定員一覧表
- 資料6: 令和8年度 保育所等(2・3号認定)の入所状況及び待機児童数について
- 資料7: 令和8年度 幼稚園等(1号認定)の入園状況及び待機児童数について
- 資料8: 地域子ども・子育て支援事業の取組状況(第三期加古川市子ども・子育て支援事業計画)
- 資料9: 放課後児童健全育成事業(児童クラブ)の施設整備状況及び児童数
- 資料10: こども誰でも通園制度の実施状況
- 資料11: こども・若者の意見聴取に係る取組状況(令和7年度実績)
- 資料12: こども・若者の居場所づくりの取組について
- 資料13: こどもの居場所づくり(こども家庭庁パンフレット)
- 資料14: こども食堂マップ
- 資料15: 市内の学生向け自習室一覧

【議事要旨】

1 開会	
2 議事	(1)利用定員の設定について 資料1により説明 委員 (質問・意見等なし) 異議なし。
3 報告事項	(1)利用定員の変更について 資料2により説明 (質問・意見等なし) (2)加古川市こども・若者計画の参考指標について 資料3、4により説明 委員 指標⑦「加古川市が子育てしやすいまちだと感じる」と思う人の割合について、策定時から令和7年度にかけて15%程度増加しているが、何人から回答があったのか。 事務局 市民意識調査において、回答者1120人のうち693人が、育てやすいと「感じる」「やや感じる」と回答した。 委員 指標③「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う小学生・中学生の割合」について、小学生の回答が策定時より下回っているが、具体的な要因はあるのか。 事務局 調査対象が小学6年生と中学3年生であり、回答する児童・生徒が毎年変わるため、対象者の違いによる数値の変動ではないかと思われる。 (3)教育・保育の利用状況及び取組状況等について 資料5～7により説明 委員 保育所等の待機児童が6名おり、幼稚園の待機児童も2名いるが、待機児童への対応はどのようにしているのか。空きが出た時点で、入所ができるのか。それとも、別の園を案内するのか。 事務局 保育所等については、利用調整を毎月行っており、各園の空き状況は毎月変わってくる。それに応じて、毎月案内を行っている。保護者から希望変更等の申し出があれば、それに応じて対応する。また、幼稚園については抽選で入園を決定しているため、転出等で定員に空きが出た場合は、保護者へ連絡し、希望をお伺いし、対応している。

(4)第三期加古川市子ども・子育て支援事業計画の取組状況について
資料8、9により説明

委員 「1 利用者支援事業」の保育コンシェルジュについて、どのような相談や問合せが多いのか。

事務局 相談内容で一番多いのは、保育園や幼稚園などへの入所に関する相談。保育所、認定こども園、認可外施設など様々な選択肢があるため、違いについて説明し、手続き方法を案内している。また、園に入所してからの相談もある。先生方に直接言いづらい内容などについて、保護者と園の橋渡しを行っている。

委員 「7 乳児家庭全戸訪問事業」について、多胎妊娠のフォローはあるのか。

事務局 令和5年度までは多胎の妊婦を対象にした産前教室を開催していたが、現在は開催していない。多胎の妊婦は年間で20組前後いるが、多胎妊婦は切迫早産等の安静、管理入院、早期入院になる方も多く、集団の形式では、実際参加できる方が少なく集団での実施は難しかった。そのため、多胎妊婦に対しては個別に家庭訪問するなどして多胎ならではの育児や授乳の悩みに対応できるよう、フォローを行っている。また、毎年職員に研修を受講させ、多胎に関する指導について職員間での情報共有を行っている。乳児家庭全戸訪問では、多胎児だけではなく、すべての家庭を訪問し相談に応じている。

委員 「5 放課後児童健全育成事業(児童クラブ)」について、資料9-2で、令和8年4月1日現在の待機児童数が15名とのことですが、今現在の待機児童数は何名か。また、夏休みのみの利用は可能か。

事務局 月2回入所決定を行っており、その際に、退所を希望される方もいるため、待機児童数は減少している。
また、夏休み期間限定利用の受付も行っているが、今年度からは夏休み限定利用に限り、待機児童の解消という観点から、野口南のように受け入れできない場合で、他の小学校での受入れを希望された場合は、他の小学校での受け入れを行っている。令和8年度は4小学校67人が定員を超え、そのうち中で、他小学校を希望したする者16人の受入調整を行い、残りの51人は利用できていない。

(5)こども誰でも通園制度の進捗状況について
資料10により説明

委員 制度が始まってから利用者や事業者から何か意見などはあるか。

事務局 この制度は、国が用意した総合支援システムを通じて、予約管理や給付の計算を行うことになっている。事業者からは、システムの運用について難しい箇所があると聞いている。

委員 始まったばかりなので、今後様々な問題が起こる可能性はあるように思う。

	(6)こども・若者の意見聴取に係る取組状況(令和7年度実績)について 資料11により説明 (質問・意見等なし)
4 テーマ討議	(1)こどもの居場所づくり 資料12～15により説明 委員 中高生の自習室は、図書館や東播磨生活創造センター「かこむ」など十分スペースが確保されていると感じている。テスト期間などは、どの学校も時期が被るため、込み合っているように思われるが、市全体として考えると自習室が足りないという感覚はない。むしろ不足していると感じるのは、学生にとって、飲食ができる、自由に使えるちょっとしたスペース。例えば友人と放課後にちょっとしゃべりたいと思った時は、机と椅子があれば十分で、一時期、加古川駅前に机と椅子が置いてあったのが、とても有難かった。そういったスペースが増えると嬉しい。 委員 仕事が週2回の場合に児童クラブに預けるのは躊躇うため、そのような際の一時預かり先があれば大変助かると感じる。 障害を持ったこどもに対して、放課後等デイサービスではレクリエーション活動を行っている事業所があり、楽しく温かい場を準備してくださっているのは大変有難いと感じている。 委員 来年度から部活動がなくなるため、中学生の保護者は、放課後のこどもの居場所について大変不安に感じている。「かこ☆くら」も始まったばかりのため、なかなか想像がつかず、こどもが放課後にどのように過ごすのか、全く想像がつかない状態。 中学校の空き教室を利用し、大人が見守る環境のもとでの放課後の居場所を作ったりができないかと考えている。 委員 加古川市では、こども・若者へのアンケート調査を色々とされているとは思いますが、アンケート調査の結果がどこに公表されているのかが分かりづらい。そのため、意見を述べただけの一方通行になってしまっている感じがする。 今の居場所は、小学生以下が中心となっており、中高生が気軽に立ち寄れる場所が十分でないと感じる。同意見にはなるが、放課後の教室や、公共施設を活用して、誰でも気軽に使えるフリースペースの整備をしていただきたいと感じる。 また、実際に使用すこどもの意見を聞く場を設けるのが良いと感じる。他市ではこども議会・こども会議などを実施している市町村もあるため、加古川市もそういったことを企画してはどうだろうか。 委員 こども食堂や自習室など、こどもの居場所を整備されているが、日々どの程度利用があるのかを把握したうえで、十分なのか不足しているのかを判断して、今後について検討いただきたい。 事務局 自習室の利用状況は、本日配付した参考資料「事前質問への回答」にて記載している。一例をあげると、かこてらすにおいて東加古川子育てプラザの閉館後の空き部屋を利用して中高生向けの自習スペースを設けている。定期テスト期間前は定員いっぱいまで利用がある。その他の期間は、受験生などが利用していることが多く、放課後から利用している者もいれば、一度帰宅して食事をしてから利用しに来ている者もあり、様々な活用いただいている。

事務局	中高生の放課後の居場所、フリースペースについて、商業施設などに机と椅子があり自由に利用できるスペースを確認したことがある。利用している年齢層も中高生だけでなく、若者世代も利用しているように見受けられたため、需要はあると感じている。市においても、JR加古川駅南広場・ベルデモール商店街などにおいて、駅前空間の「使い方」を試してみる社会実験を実施した。そこにも机と椅子を設置したが、冬で肌寒かったにも関わらず利用者はいたため、一定の需要はあると感じた。
事務局	いただいた意見については、関係課に共有し、検討していく。
6 閉会	